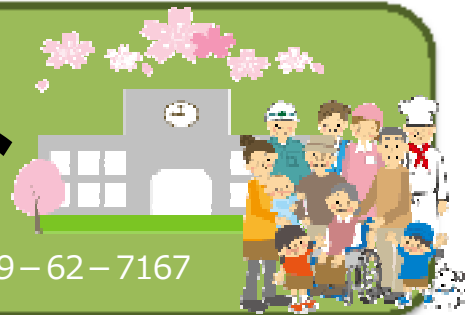


K-ふれあいネット

発行：平成29年9月 日

上都賀教育事務所ふれあい学習課：鹿沼市今宮町 1664-1 TEL0289-62-7167



上都賀地区 地域連携教員研修会

「新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方について」の答申において、地域とともにある学校、学校を核とした地域づくりなど、これからの学校と地域の目指すべき連携・協働の姿が示されました。（下記コラム参照）上都賀地区においても各校や地域で連携・協働の体制づくりを進めていただいているところですが、課題も多々抱える現状に、管理職及び地域連携教員の先生方にとっては御苦労も多いのではないのでしょうか。

8月10日に行われた地域連携教員研修会では、県の方針や地区の現状についての説明、学校と地域の連携・協働の推進についてのワークショップを、とちぎ市民協働研究会 代表理事 廣瀬 隆人 氏をお招きして行いました。廣瀬氏からは、中教審答申における社会的な背景から学校支援ボランティアまで、連携・協働の意義や学校や地域の在り方、具体的な取り組み方などについて、大変分かりやすくお話いただきました。また、地域との連携にあたり、日ごろ感じている苦勞や悩みなどを参加者同士で分かち合ったり、廣瀬氏からアドバイスをいただいたりできました。

参加者からは、“とても分かりやすくやる気を持つことができましたお話でした。”、“今どうして地域連携が必要なのかという理由がとてもよく分かりました。”、“地域での活動の可能性をたくさん感じられて勉強になりました。”、“改めて地域について考える機会になりました。地域の人々の成長という視点を大切にしたいと思います。”などの感想が寄せられました。本研修会を通して得られた多くの気付きやヒントを、各校や地区の実態に応じて生かしていただきたいと思います。（御参加いただけませんでした学校へは先月、研修会資料をお送りさせていただきました。）



「協力」から「協働」へ



平成27年12月の中教審答申では、「『地域とともにある学校』への転換」がこれからの学校と地域の目指すべき連携・協働の姿として示されました。

これまで、教育基本法の第13条をはじめ各種答申等においては「連携協力」や「連携・協力」が使用されてきましたが、「協力」と「協働」にはどのような違いがあるのでしょうか。

手元の辞書で確認してみると、「協力」は「力を合わせて事にあたること」、「協働」は「同じ目的のために、協力して働くこと」とあり、両者の違いは目的が共有されているか否かにあるようです。

「地域とともにある学校」には、これと決まった形があるわけではなく、「地域とともにある学校」づくりを進めるための決まった手法があるわけでもありません。それぞれの地域や学校を取り巻く実情や児童生徒の現状を踏まえ、目指す子ども像を具現化するために学校と地域の人々が一緒になって考え、行動していく営み（協働）こそが「地域とともにある学校」づくりにつながっていくと考えられます。

上都賀地区 PTA指導者研修Ⅰ

平成28年4月に「障害者差別解消法」が施行、官公庁（含・学校）等は障害者への「合理的な配慮」の提供が義務化されました。特に、学校、障害のある子とない子が可能な限り共に学ぶインクルーシブ教育が求められます。そこで、PTAで指導的な立場にある参加者の皆様が、共生社会の実現に向け障害者への理解を深めるために、RKB 毎日放送東京報道部長の神戸金史氏を講師にお招き、「父親として、記者として語る障害者と共に生きる社会実現のために必要なこと」と題して講演いただきました。

神戸氏は、父親として障害のある子を育てる上での心情、また、記者として障害のある方の家族を取材なさった経験を基にした講話してくださいました。

参加者からは、

- ・自閉症という言葉は知っていても、いったいどのような障害なのかは深く知りませんでした。今回、きちんとしたお話を聞くことができました。自分の子どもにもあてはまるものがたくさんあり、もう少し深く考えてみたいと思うテーマでした。
- ・障害者を受け入れ、一緒に生活する御家族の思いに心打たれました。一日も早く障害者と健常者が共存できる社会になってほしいと思うので、自分のできることをやっていきます。

等の感想が寄せられています。

講演後、4つのテーマの分科会を実施しました。子どもの人権を学ぶワークショップ、親学習プログラムのワークショップの手法を取り入れた「思春期の子どもとの適切な関わり方」「携帯電話・スマートフォンの扱い」、そして、下野新聞社から講師を招き「伝える・伝わる広報紙のポイント」です。希望したテーマへの参加ということもあり、どの会場も活気に満ちた話合いや活動ができました。参加者からは、「普段話すことのない方々と、いろいろなお話ができ、楽しく有意義な時間だった」「子どもとの向き合い方は、子どもを尊重することを基本に考えることが大切だと分かった。これからも子育てを楽しみたい」等前向きな意見をたくさん聞くことができました。

講演会の司会等地区小中高 PTA 連絡会の役員の方々にも御協力いただきました。この場を借りて感謝いたします。



とちぎ子どもの未来創造大学出前講座 in 鹿沼

夏休み中、鹿沼市民情報センターで2講座実施しました（右写真参照）。

『クリップモーターをつくろう』では、扇風機やドライヤーなど、電気力で回転させるモーターの仕組みについて、クリップモーターを作り、どうして回転するのか考えました。モーター作りは、子散る巻きやエナメル線のヤスリかけなど、細かい作業でしたが、電池のクリップに乗せたコイル（回転部分）が弾みをつけた瞬間に勢いよく回転し始めると、子どもたちから歓声が上がっていました。

また、『飛行機はなぜ飛ぶの?』では、飛行機が飛ぶ仕組みについて学んだ後、世界最長記録をもつ紙飛行機の折り方を教えてもらい、ワクワクしながらどれくらい飛ぶのか試しました。



※次回は、in 日光編をお届けします！！

『クリップモーターをつくろう』
(一財) 関東電気保安協会

『飛行機はなぜ飛ぶの?』
(株) SUBARU 航空宇宙カンパニー

